

2003年(平成15年)4月16日 水曜日

仙台市の社会福祉法人
・ありのまま舎(総裁・
三笠富寛(親王)が主催



太田 茂教授

太田教授(医福大)が受賞

ありのまま自立支援大賞

する「第5回ありのまま自立支援大賞」に、福祉システム研究会長の太田茂・川崎医療福祉大学教授(元)が十五日までに決まった。表彰式は二十七日。

太田教授は幼児期の病気で両足に障害があり、長男も重度の難聴。コンピュータ技術者として東京の大手メーカーに勤務していた一九八五年、民間技術者や福祉関係者らと同研究会を結成し、

一般化していなかったパソコンを活用する「ハイテク福祉」を提唱した。米リハビリ法を基に作成した日本版草案が九〇年、当時の通産省から「情報処理機器アクセシビリティ(使いやすく努力する)指針」として公表されるなど、同研究会は電子機器の発展をノーマライゼーションにつなぐ活動を継続。太田教授は九一年から同大で「元氣な高齢者の独り暮らし応援システム」の実用研究などに取り組んでいる。

ありのまま舎はだれもが前向きに生きられる社会を提唱し九九年、障害者や支援団体などを対象に「ありのまま賞」を創設。太田教授は「電子機器発展は多くの障害者の可能性を切り開いたが、一方で新たに社会から締め出される人をつくる危険性もある。今後とも真のノーマライゼーション実現に努力したい」と話している。